

令和6年度の実績 - アウトリーチ

資料12-3
運営会議(第101回)
令和7.3.14

1. サイエンスコミュニケーション会社による活動（3月末までに完了）

核融合科学アウトリーチの実施にあたり、社会受容の観点で、ターゲットを整理し、①対話のデザイン、②ウェブサイトデザイン、③実態把握調査に向けた検討を行った。令和6年度は準備期間とし、実態調査のデータをもとに令和7年度より本格的に稼働の予定である。

②ウェブサイトデザインは、市民ニーズの反映と市民理解の醸成を目的として、市民参加型の合意形成プラットフォームを採用したホームページを開発中であり、定期的に記事やコラムを公開し、それに対するコメントを受け付ける予定である。

③実態把握調査に向けた検討では、市民のフュージョンエネルギーに対する認識やアウトリーチ活動の目標達成度を把握するため、令和7年度に実施する実態把握調査に向けて、科学技術の社会的受容文献を調査し項目の洗い出しを行った。現在は対象年齢、対象人数、調査方法などの今後の実施に向けた検討を行っている。

2. アウトリーチイベントの開催

QST六ヶ所フュージョンエネルギー研究所及びNIFS六ヶ所研究センターがある青森県の地元高校生が参加する、未来社会を考える50:50ワークショップの開催を支援し、25名の参加者があった。

3. 大学等によるイベント開催を支援

全国の核融合アウトリーチ活動を支援するために、イベント用教材の貸し出しをWebを通じて開始する（3月中に開始予定）。

貸し出し教材例：プラズマボール、バンデグラフ、放電管、霧箱、サーベイメータ、手回し発電機

4. ホームページによる発信強化

授業用の教材として利用できるイラスト付きスライド9枚と、学生に研究現場を実感してもらう機会として、フォトグラフアー西澤丞氏の作品（核融合装置の写真）をホームページに公開する（3月中に公開予定）。